



児湯農業改良普及センター  
(児湯農林振興局)

# 口蹄疫からの再生・復興 そして、畜産と耕種のバランスの とれた児湯農業構築へ

## 1 活動のねらい

- (1) 平成22年4月に発生した口蹄疫によって、児湯地域では約289,826頭（1,045戸）が殺処分され、口蹄疫からの再生・復興が大きな課題となりました。
- (2) 普及センターでは、関係機関と連携しながら被害にあった畜産農家への意向調査の結果に基づき、畜産経営の再開支援や耕種品目への転換を推進するとともに、畜産経営を担う若手の育成や規模拡大、6次産業化への支援など畜産と耕種のバランスのとれた児湯農業の構築に取り組みました。

## 2 活動の経過又は普及の関わり

口蹄疫からの再生・復興を組織的に支援するため、普及指導活動計画に総合プロジェクトとして位置づけ、総力を挙げて支援に取り組みました。

- (1) 畜産経営再開のための支援  
意向調査の結果、畜産経営の再開を希望した生産者710戸(68%)については、経営再開と経営の安定化を支援しました。また、生産性向上のため、飼料分析結果に基づく給与指導や子牛体測の実施等の技術的支援を行いました。
- (2) 畜産と耕種のバランスのとれた産地構造への転換の支援  
耕種品目への転換を希望した生産者については、転換品目の検討、栽培技術の修得、経営計画の作成等を支援しました。  
また、平成25年度からは殺処分された家畜の埋却地の整備・活用が始まったことから、埋却地の土壌分析と分析結果に基づく施肥指導を行いました。
- (3) 将来の担い手の育成と規模拡大のための支援  
後継者を中心とした新規就農希望者に対し、就農計画の作成支援等を行うとともに、就農後の巡回指導・経営実績検討会の実施などにより、経営の安定化を支援しました。  
また、若い畜産農家を対象とした勉強会を立ち上げ、将来の児湯畜産の担い手となるよう飼養管理技術・経営管理能力の向上を支援しました。  
さらに、経営規模拡大希望農家には、経営シミュレーション作成支援を行いました。



若手農家巡回



若手畜産農家に対する勉強会

(4) 6次産業化による経営の多角化への支援

口蹄疫被害農家の中には、経営発展への新たな取組として、6次産業化を希望する経営体もあったことから、総合化事業計画の作成支援やフォローアップ巡回を実施し、円滑な事業の展開を支援しました。

### 3 活動の成果

(1) 児湯地域では、畜産経営再開希望者の89%に当たる634戸が畜産経営の再開を果たすとともに（H24.12現在）、144戸が園芸作物に転換しました。現在、管内の飼養頭数は口蹄疫発生前の74%にまで回復しました。

(2) 経営再開を果たした農家では、地域全体で「全国モデルとなる家畜防疫体制」確立に向けた取組を展開するとともに、飼養管理技術の向上の結果、第10回全国和牛能力共進会で優等主席を獲得し2連覇に貢献するなど、口蹄疫からの復興を印象づけました。

また、大規模経営体の中には6次産業化への取組など、経営の多角化に取り組む事例も出てきています。

(3) 畜産経営から転換した農家では、かんしょやほうれんそうなどの加工用農産物の生産が進むとともに、飼料用イネなど自給飼料生産の拡大、耕畜連携の取組なども進んでおり、畜産と耕種のバランスのとれた農業が行われています。

(4) これらの結果、児湯地域の平成25年の農業産出額は774億円となり、口蹄疫発生前とほぼ同程度までに回復しています。

また、近年、若手畜産農家も増え、各地で学修会が開催されるなど、将来の児湯畜産の担い手として期待されています。



加工用ほうれんそうの栽培



徳安記念普及功労者表彰受賞

### 4 今後の方向

(1) 肉用牛繁殖農家の高齢化等から、母牛頭数が減少しており、子牛出荷頭数が減少しています。このため、子牛事故率の低減や空胎日数の短縮等による子牛生産性の向上及び新規就農者の確保や飼養規模拡大による母牛の増頭等を支援していきます。

(2) 水田フル活用等による飼料生産基盤の強化に取り組めます。

(3) 栽培の機械化による加工原料野菜栽培の生産性向上や6次産業化による経営の多角化等を更に進め、畜産と耕種のバランスのとれた児湯農業の構築を支援していきます。

### 5 対象集団又は対象農家の声

- ・口蹄疫の発生後はとても苦しかったが、やっとここまで回復できた。家畜防疫に留意しながら、儲かる畜産経営を目指して頑張っていきたい。
- ・畜産から耕種への品目転換で当初は不安もあったが、今は、軌道に乗りつつある。今後は、規模拡大に向けて取り組んでいきたい。
- ・埋却地再生整備後のほ場については、天地返しと同じような状況になっているので1、2作目はあまりうまくできないと思っている。土づくりをしっかりとすれば、徐々にうまくできるようになると思う。